



学 校 便 り

6 月 号

校長 赤尾 眞司

武石移動教室で見つけたこと



校長 赤尾 眞司

5月21日から24日までの4日間、6年生は「武石移動教室」を実施しました。移動教室で、子供たちは、普段の学校生活では味わえない様々な体験をしてきました。

今回の移動教室で、子供たちは改めてあいさつの大切さを学んだのではないのでしょうか。初日は、連合校の豊玉東小学校のあいさつに圧倒されていました。しかし2日目、3日目と日増しに元気なあいさ

つが聞こえるようになりました。「おはよう」「こんにちは」だけでなく、食事の時には「ごちそうさま」「ありがとう」「美味しかったです」等の言葉が自然に出るようになってきました。また、相手の顔を見て、笑顔であいさつが出来る子も増えていきました。せっかく学んだことです。この4日間で終わらせずに、学校中に6年生からあいさつの輪を広げてほしいと願っています。

28日の全校朝会で報告した、移動教室での活動の一部を紹介します。（文章は一部抜粋しています）

1日目は、八島湿原までハイキングをしました。私たちは、このハイキングでいろいろなことを学びました。その一つは、みんなで協力することの大切さです。みんな、はげまし、助け合いながらハイキングを楽しむことが出来ました。 2組 さん

ウォークラリーでは、約3キロを先生の出すクイズに答えながら歩きました。道を進んでいくと、ツユクサという花や、紅葉橋という所を流れる川など、東京では見られないような景色が見られました。さらに進むと、かやぶきという、わらを屋根に使った珍しい家や、大きな白樺の林など、武石の自然を感じられました。 2組 君

2日目の夜にキャンプファイヤーをやりました。キャンプファイヤーでは、遠き山に火が落ちてや、燃えろよ燃えろ、コスモスを歌ったり、マイムマイムやジンギスカンをおどりました。どの遊びをしても、みんなと心が深まった気がしました。 1組 君

1日目、2日目の夜に星空観察をしました。私がすごいと思ったことが2つあります。1つは天の川が見えたことです。もう1つは土星が見えたことです。武石の空は星がいっぱいきれいでした。見ているだけでとても気持ちよくなりました。 1組 さん

3日目は飯ごう炊さんをしました。カレーライス作りを、火をおこすことからはじめました。僕は火をおこす担当でしたが、最初は火をおこすことが出来ず、大変でした。出来上がったカレーライスは、途中で降ってきた雨の不快感を感じなくなるくらい美味しく、作って良かったと思いました。また、協力することの大切さも学ぶことが出来ました。 2組 君

黒耀石ミュージアムに行きました。高らい石というやわらかい石を水につけて紙やすりで削って、勾玉というお守りを作る体験をしました。削る加減を調整するのはむずかしく、ツルツルにするのは大変でした。けれど出来上がった時の達成感がありました。 1組 君

私が長野県立歴史館で分かったことは、縄文土器と弥生土器です。教科書、資料集では分からないことが、土器をさわり次々分かりました。縄文土器は、縄の模様のところがかぼこしていて分厚く、弥生土器と重さはあまり変わりませんでした。いろいろなことを体験したりお話を聞いたり、とても楽しかったです。 1組 さん

移動教室は、集団での生活の楽しさ、大切さを学ぶ場でもあります。集団生活は、これから子供たちが社会に出て、社会の中で生きていくために必要なことです。ベルデでの4日間、一人一人が友達のことを考えた行動を心掛けるようになっていくことで、友達と一緒にいること、友達と協力することが楽しいと感じられるようになってきたのではないのでしょうか。

帰校式での子供たちの顔は、満足感にあふれているようでした。